

介護福祉士国家試験の概要について

1 介護福祉士国家試験について

- 介護福祉士試験は、介護福祉士として必要な知識及び技能について行う。(社会福祉士及び介護福祉士法第40条第1項)

2 試験の形態

- 第1次試験(筆記試験)、第2次試験(実技試験)
- 筆記試験の出題数は125問(1問1点の125点満点)
- 実技試験は、筆記試験に合格した者に限り受験でき、1人当たりの試験時間は5分間以内。
- 試験実施機関は、(公財)社会福祉振興・試験センター。

3 試験科目

(1) 筆記試験

領域：人間と社会

人間の尊厳と自立 人間関係とコミュニケーション 社会の理解

領域：こころとからだのしくみ

発達と老化の理解 認知症の理解 障害の理解 こころとからだのしくみ

領域：介護

介護の基本 コミュニケーション技術 生活支援技術 介護過程

領域：医療的ケア

医療的ケア

総合問題(上記4領域の知識及び技術を横断的に問う問題を、事例形式で出題)

(2) 実技試験

- 介護等に関する専門的技能

4 合格基準

(1) 筆記試験の合格基準

- 次の2つの条件を満たした者

ア 総得点の60%程度を基準とし、問題の難易度で補正した点数以上の得点の者

イ アを満たした者のうち、以下の試験科目11科目群すべてにおいて得点があった者

- ①人間の尊厳と自立、介護の基本 ②人間関係とコミュニケーション、コミュニケーション技術 ③社会の理解 ④生活支援技術 ⑤介護過程 ⑥こころとからだのしくみ ⑦発達と老化の理解 ⑧認知症の理解 ⑨障害の理解 ⑩医療的ケア ⑪総合問題

(2) 実技試験の合格基準

- 総得点の60%程度を基準とし、課題の難易度で補正した点数以上の得点の者